

溺愛監禁 零

●キャラクター

鷹司 将

身長…183cm

体重…85キロ

体型…体育会系

年齢…28歳↓32歳↓37歳で作中変化します

鷹司家の次期当主として、子会社や関連会社をめぐって見聞を広めている最中。

立场上発言力が大きすぎるため、目立たないように過ごしつつ、事情を知っているお偉方に仕事のイロハを教えてもらっている。

そんなさなかに見かけたヒロインに一目ぼれ。

なんとかあまり圧力をかけない形で彼女とお近づきになれないかと考えていたところ、彼女の自殺現場に居合わせ、多少強引にでも彼女を救うことを決意する。

彼女と結婚してからは本社にうつり、早世した父に代わって一族の当主として手腕を振るう。

物腰柔らかくふるまうが、その実野心家で、どんな苦境でも楽しみ、なんでもポジティブにとらえる性格。

人生も仕事も楽しくて仕方がないし、仕事の仕方でも「誰もが可能な限り得をするように」という考え方で動くため、存在しているだけで周りの人々を幸せにする男。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

●トラック1 初夜

ヒロインがビルから飛び降りようとしていると、鷹司 将（たかつかまさる 28歳）が背後から歩み寄り、声をかけてくる。ヒロインは屋上のふちに腰かけており、鷹司に背を向けている。転落防止の柵や金網はない。

場所：会社ビルの屋上
時刻：夜・秋

SE:近づいてくる足音

【13】

鷹司「落ち着いて」こんばんは。
気持ちのいい夜ですね」

SE:ヒロインの衣擦れ

鷹司「空気が澄んで、星がきれいで。
こんな日は、鬱陶しい残業を切り上げて、
こうして屋上に出たくなる」

鷹司「窮屈な靴を脱いで、空に足を投げ出して、
ここから落ちたらどうなるのかって、
想像を巡らせたくない。

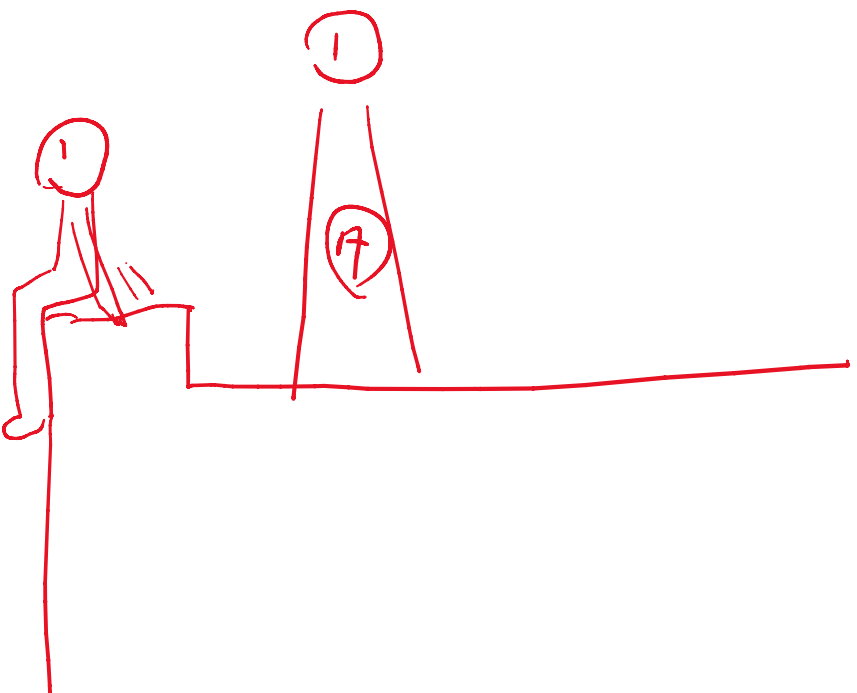
【少し笑って】ちょうど、今の君みたいに」

鷹司「ねえ、僕も隣に行っていかな」

【ヒロイン、答えないが鷹司はかまわず隣へ】

SE:靴を脱ぐ

SE:足音背後から左へ



35
34
33
32
31
30
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【鷹司、ヒロインの左側に腰かける】

【1-1】
鷹司「よつと……」

あ、缶コーヒー買ってきたんだけど、
飲むかな？

君、いつもこれ飲んでるだろう？」

【ヒロイン怪訝そうに鷹司を見る】

【9】

鷹司「やつとこつちを見てくれたね。」

君にとつては初めましてかな。

僕は鷹司 将（たかつか まさる）。

一応、君と同じビルで働いてる。

といつても、勤務時間にサボって

本ばかり読んでる給料泥棒だけどね」

鷹司「君が屋上に行くのが見えたから、

追いかけてきたんだ。

缶コーヒーを口実に、

お近づきになれたらと思つて。

コーヒー、ここに置いておくね。

あ、タバコいいかな？」

SE: 缶をコンクリに置く

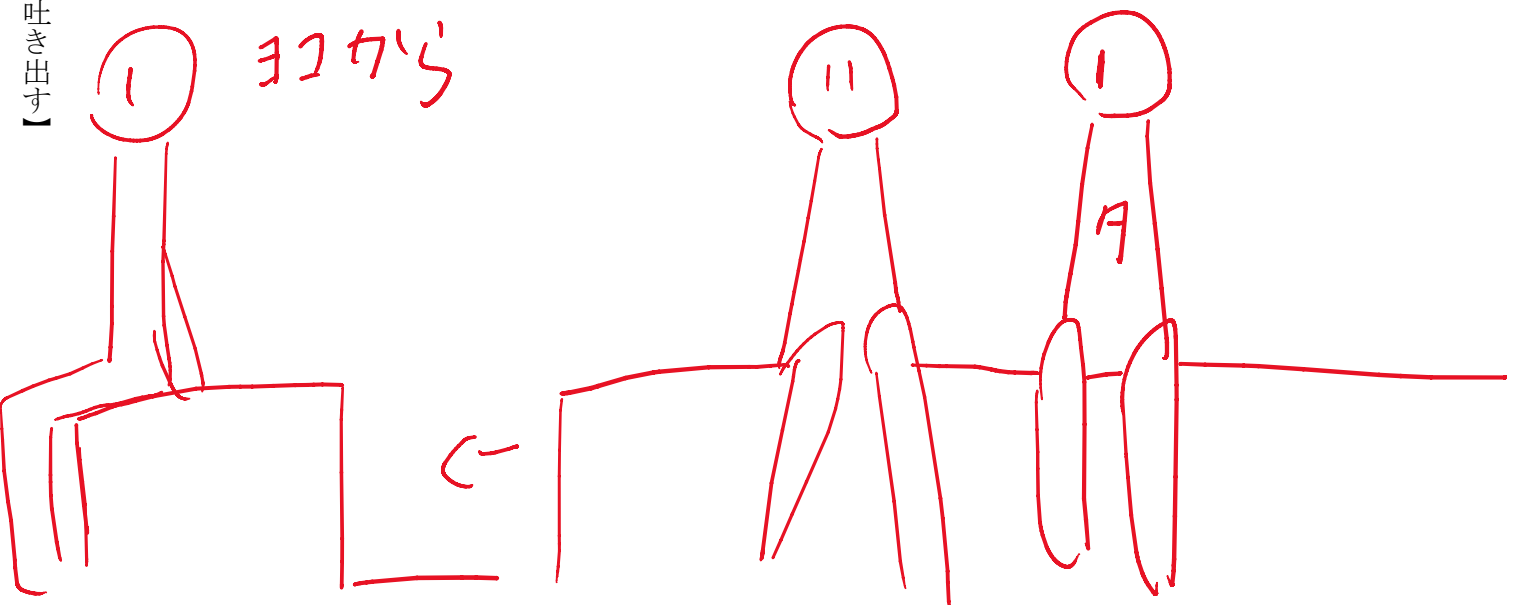
SE: シガレットケースからタバコ出す

SE: オイルライターで点火

【鷹司、ヒロインから顔を背け、煙草を深く吸い込んで吐き出す】

SE: 缶のプルトップ開ける

【鷹司、缶コーヒーを一口飲み、かたわらに缶を置く】



1 SE:缶を置く

2 SE:遺書を開く

3
4 【6 ヒロインから顔を背けて】

5 鷹司「この遺書、そこに置いてあったけど……
6 読んでいいかな」

7
8 【ヒロイン、警戒したまま黙って頷く】

9
10 SE:紙カサカサ

11
12 鷹司「……迷惑をおかけしました。

13 私は生きている価値のない人間です。

14 私の死の知らせをうけて、

15 みなさまが少しでも喜んでくださることを

16 心から祈っております“」

17
18 【深刻になりすぎず、なにげない感じで、おだやかに】

19
20 鷹司「ふむ……困ったな。

21 これじゃあ、君が死にたい理由がわからない」

22
23 【6 ヒロインを見て】

24 鷹司「もともと誰に何をされたのか、

25 何が辛くて死ぬのか、

26 細かく書いてから死ぬのでも遅くはない。

27 誰のせいで、君はこんなふうになったんだい？

28 君が死んだら喜ぶだろう人間の名前を、

29 僕に教えてくれないか」

30
31 【ヒロイン、首を左右に振る】

32
33
34
35
36

1 【9】

2 鷹司「そうか。」

3 言いたくないのなら、無理に言わなくてもいいぞ。

4 けどこの遺書の感じだと、

5 君は、君の死を願う「みなさま」のために死のうとしてる。

6 僕はね、それが我慢ならなんだよ」

7

8 【ヒロイン「c」】

9

10 鷹司【煙草吸って吐く】

11 ねえ、ひとつ提案があるんだ。

12 もし本当に要らないのなら、

13 君の命を僕に出来ないだろうか」

14

15 鷹司「君のいう「みなさま」は、

16 君の死を喜ぶかもしれない。

17 けど、僕は君が生きている方が嬉しい」

18

19 鷹司「だから、君を苦しめるすべてのものから、

20 僕が解放してあげる」

21

22 鷹司「君の死を喜ぶ「みなさま」も、

23 「雑用ばかりの退屈な仕事も、

24 全部君の世界から消してしまおう」

25

26 【ヒロイン「無関係の他人を信用できない」】

27

28 鷹司「ふ……あっはははは！

29 今から死のうという人が、

30 ずいぶんまつとうな警戒心をもってるじゃないか。

31 そうだね、確かに怪しいし、信用できない」

32

33 鷹司「他人であることが問題なら、

34 明日の朝一で役所に行こう。

35 使用人にも証人を頼んで、婚姻届けを提出すれば、

36 はれて僕たちは夫婦だ」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【ヒロイン「簡単に離婚できる」】

【6】
鷹司「離婚？」

まあ……そうだな。確かに、どちらも紙切れ一枚の話だ。
じゃあこうしよう。
仮に離婚に至った場合、僕の財産はすべて君のものだと、
弁護士立ち合いのもとで契約書を書く。
なんなら、僕と結婚した翌日に、
君が「離婚したい」と言えば、
一生食べていけるだけの財産が手に入るというわけだ」

【ヒロイン「そこまでしてもらえる理由がわからない」】

鷹司「理由？ 簡単なことぞ。
僕は君を愛してる」

【ヒロイン、まったく信じてない目で鷹司を見る】

【鷹司、タバコを吸って吐き、コンクリで消し、立ち上がる】

SE:タバコ消す

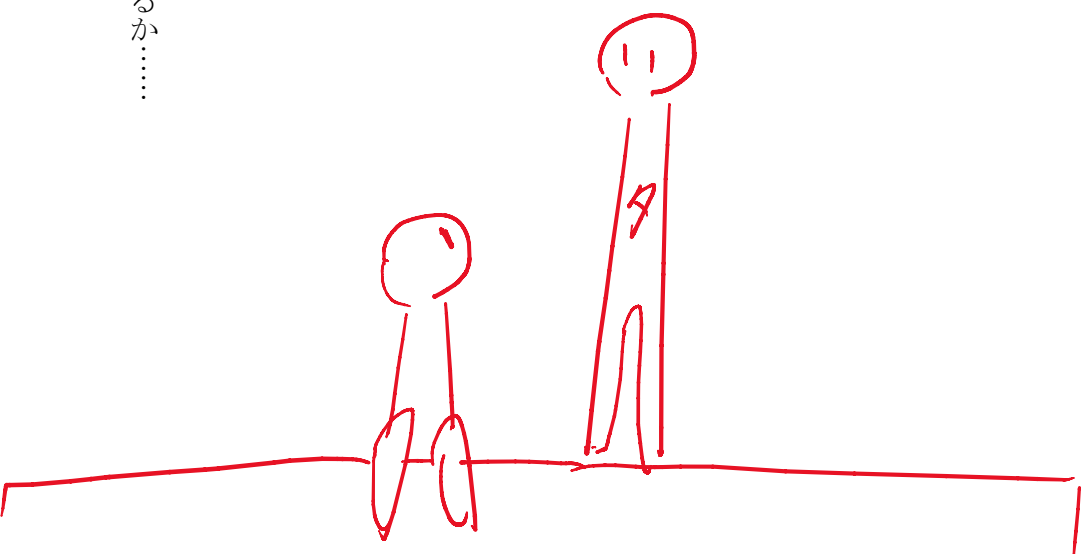
SE:立ち上がる

鷹司「【立ち上がりながら】信じられなくてもいいぞ。

どうかしている自覚はある。
ただ、どう転んでも君に損はないだろう？
生きている間にすべての苦痛を取り払ったらどう感じるか……
死ぬのはそれを知ってからでも遅くない」

【ヒロイン「本当に愛してるなら、今ここで私を抱ける？」】

SE:ヒロインの衣擦れ



【9】

鷹司「【ぎよんとんとして】え？ 今、こゝで？

傷だらけの猫みたいな顔をして、

妙なことを言うものだ。

君はビルの屋上で、

会ったばかりの男に抱かれないと、

心の底から思うのかい？

ほかの誰かが屋上に上がってくるかもしれないし、

向かいのビルの屋上から僕たちは丸見えだ。

何より、一歩足を踏み外せば、

僕たちはまとめて下の道路に真っ逆さまだ」

【鷹司、しやがみ込んでヒロインをのぞき込む】

SE：衣擦れ

【1 至近距离】

鷹司「もちろん、僕はかまわない。

覚悟を示せと言うんだろう？

いいさ。君の望むとおりにしてあげよう」

【3】

鷹司「君がそれを望むなら、

喜んで一緒に破滅する」

SE：押し倒す

【ヒロイン、ぎよんとんとして「本気？」と聞く】

【1】

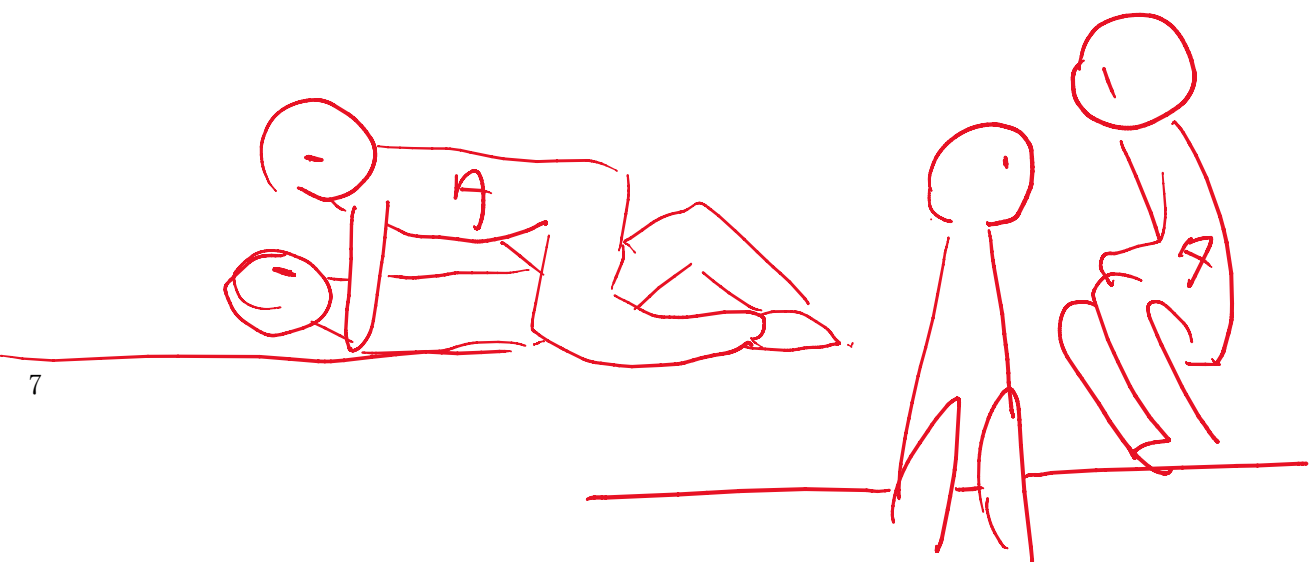
鷹司「本気だとも。

震えているね。

落ちるのが怖い？」

【ヒロイン「あなたが怖い」】

36



1 【1】
2 鷹司「僕が？ わからないな。
3 どうして僕が怖いんだい？」
4

5 【鷹司、ヒロインの首筋に繰り返しキスしながらしゃべる】
6

7 【2】
8 鷹司「ん……ちゅ、僕はただ、ちゅ、こうして、
9 君の言う通りにしてるだけだろう？ ちゅ、ちゅ……」
10

11 【1】
12 鷹司「キス、してもいいかな。唇に。
13 タバコとコーヒーのせいで、
14 少し苦いかもしれないけど【言い終わりでキスに入る】」
15

16 【ディープキスのリップ音30秒程度ください】
17
18 鷹司「まだ体がこわばってるね。
19 怖いなら、目を閉じてしまえばいい。
20 大丈夫。
21 僕は絶対に君を落としたりしない」
22

23 【7】
24 鷹司「目を閉じて、すべて僕に任せればいい。
25 僕の声と、指と、体温だけに集中して。
26 わかるかい？
27 僕の指が今、君の体を撫でているのを、
28 服の上からでも感じるだろう？」
29

30 鷹司「いい子だ。いい子。
31 もっと、君の深いところにさわらせてくれ。
32 この制服……もう君には必要ないだろう。
33 破いてしまおうね」
34

35 SE:ワイシャツ破く

36 SE:ボタン飛ぶ

1
2
3 鷹司「まったく……凄まじい眺めだな。
4 まるで悪い男にでもなった気分だ。
5 背德的で、みだらで、
6 どこまでもいじめたくなる」
7

8 【鷹司、ヒロインの全身を愛撫する】
9

10 SE:肌を撫じる音
11

12 鷹司「柔らかいな、どこもかしこも。
13 少し力を入れたら崩れてしまいそうだ」
14

15 【この先、鷹司のセリフで何をやっているか、明確にわからなくて大丈夫
16 です。リスナーの想像力にお任せパート】
17

18 【3】

19 鷹司「ここ、触られると気持ちいいかい？

20 くすぐりたい？ いや？

21 じゃあここは？ ふふ……ほら、感じてる。

22 いくらでも触ってあげる。

23 これから毎晩、何度でも、君が望むだけ。

24 君が僕の愛を疑う暇がないくらい絶え間なく」
25

26 【耳舐め30秒程度お願いします】
27

28 鷹司「ふふ。今、軽くイっただろう。

29 僕が触れるたびに体が跳ねて、

30 素直でかわいらしいな。

31 もっともっと感じさせたくなる」
32
33
34
35
36

1 【1】
2 鷹司「両足を上げて、僕の肩の上に。
3 そう、いい子だ。
4 今から、何をされるかわかるかい？
5 逃げられないように腰をしつかり捕まえて、
6 君の一番気持ちいいところを、
7 いやというほど舌で舐ってあげる」

8
9 【1 下から】
10 鷹司「好きなだけ声を上げて叫ぶといい。
11 誰かがいぶかって、様子を見に来るくらいにね」

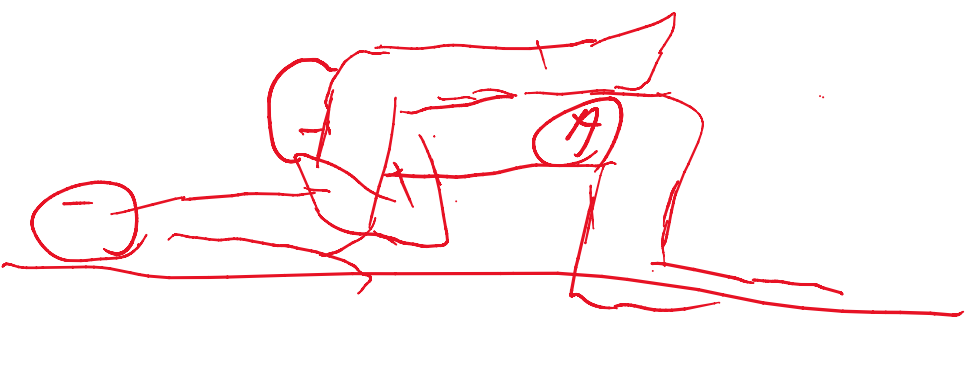
12
13 【1分程度クンニのリップ音ください】
14
15
16 【鷹司、ヒロインの絶頂で切り上げる】

17 SE: 激しめの衣擦れ
18
19 鷹司「気だるげに」はぁ……
20 たっぷりと濡れて、ほぐれてきたね。
21 もっと時間をかけたいところだけど。
22 ……どうも向かいのビルで、
23 僕らに気づいたやつがいるらしい。
24 君の艶姿を僕以外に見せるのも、
25 考えてみれば癪に障る」

26
27 SE: ベルト外す
28 SE: ファスナーおろす
29

30 【1 顔の近く】
31 鷹司「入れるよ、力を抜いて。
32 と言っても、すでに抜けきっているか。
33 ほら」
34

35 SE: 挿入音
36



1 【1】
2 鷹司「奥まで入った。
3 わかるかい？ 君のお腹の、このあたりだ。
4 自分の手で触って、押してみれば僕の形がわかる」
5 ほら、ぐつと……」

6 SE：激しめの衣擦れ

7 鷹司「ふふ。女性の体とは面白いものだね。
8 動いてもいないのに、
9 押されるだけでそんな声が出るなんて。
10 ここを何度も押すだけで、
11 もう許してくれと泣くほどイキ狂う女もいるそうだ」

12 鷹司「君も簡単にイけそうだね。

13 こうして、ぐ、ぐ、ぐって……
14 何度も、何度も。
15 ああ、中がうねって絡みついてくる。
16 怖いかい？ じゃあキスしよう」

17 【30秒ほどディープキスお願いします】

18 【ヒロイン、体外式ポルチオで絶頂】

19 鷹司「あっはは！

20 ああ、この締め付け……痛いくらいだ。
21 僕もそろそろ、我慢がきかなくなってきた。
22 ほら、僕の背中に腕を回して。
23 少し激しくするから、覚悟してくれ」

24 SE：出し入れする水音

25 SE：衣擦れ

26 ※着衣プレイなのでパンパン音なしで

27 【いきなり激しめに、吐息のみでフィニッシュまでやりよい時間でアドリ
28 ブください】
29
30
31
32
33
34
35
36



【1】

鷹司「くっ……ふっ……ああ……ッ!

はっ……はっ……はあ……はあ……

【長々ため息】はあ……」

鷹司【思わず笑いだす】ふ、ふふ……あは、あははははー!」

【ヒロイン、怪訝そうに鷹司を見る】

【6】

鷹司「ああ、すまない。

冷静になったら少し……

いや、恐ろしく頭のおかしなことをしたものだと思ってね」

【鷹司、抜いて軽く身支度を整える】

SE: 抜く水音

SE: ファスナー上げる

SE: ベルト閉める

鷹司【下を見て】見てっらんよ、この高さ。

【ヒロインを見て】こんなところで初夜を迎えた夫婦、

僕と君くらいのもんだろう」

【ヒロイン「あなたは死ぬのが怖くないの?」】

鷹司「うん?」

そうだね。死ぬのが恐ろしいと思ったことはないよ。

それが、愛する君と一緒にならなおさらだ。

愛する人に残されて生きるずっと怖い。

僕が死を選ぶとしたらその時だ」

【鷹司、ヒロインに背を向けて胸壁をおりてから、ヒロインに振り向く】

36

35

34

33

32

31

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

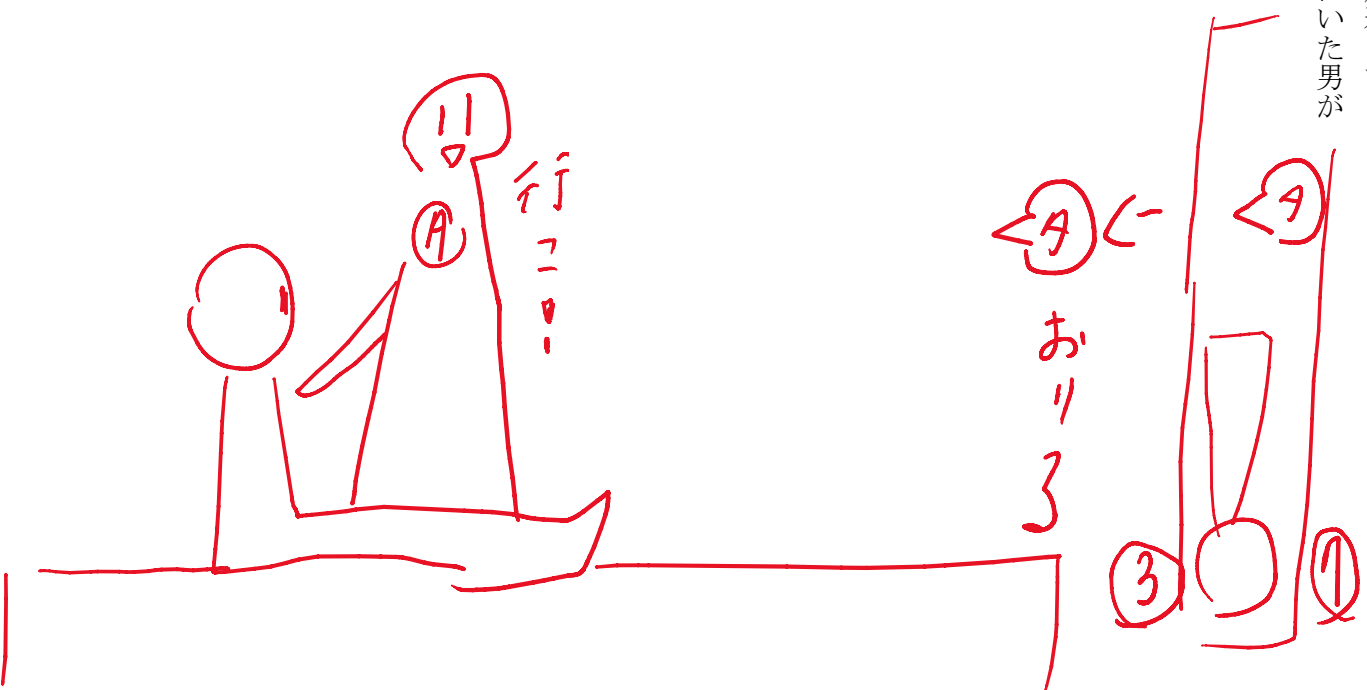
3

2

1

【9 ヒロインに背を向け、胸壁を降りながら】
鷹司「さて。汗をかいたし、夜風にさらされては風邪をひく。
そろそろ行かないと、さっき向かいの屋上にいた男が
双眼鏡をもって戻ってきかねない」

【6 ヒロインを見て】
鷹司「行こう。新婚生活の始まりだ」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

●トラック2 性分

初夜を終え、ボロボロの服を来たヒロインを本家に連れ帰る鷹司。
次期当主が突然嫁を連れて帰ってきたのでしばしてんやわんやになる。

時間：夜

場所：鷹司家

SE:車から降りる

SE:足音一人分

【鷹司、ヒロインの半歩前に立って歩く】

【8 ヒロインに背を向けて】

鷹司「ここが僕の産まれた家だ。

いかにも『日本家屋』って感じだろうか？

古い家ですまないけれど、

改築はしてあるから、住み心地は悪くないはずだ」

SE:引き戸ガラガラ

鷹司「おおい、帰ったぞ！」

【使用人、奥から慌てて出てくる】

SE:近づいていく速足

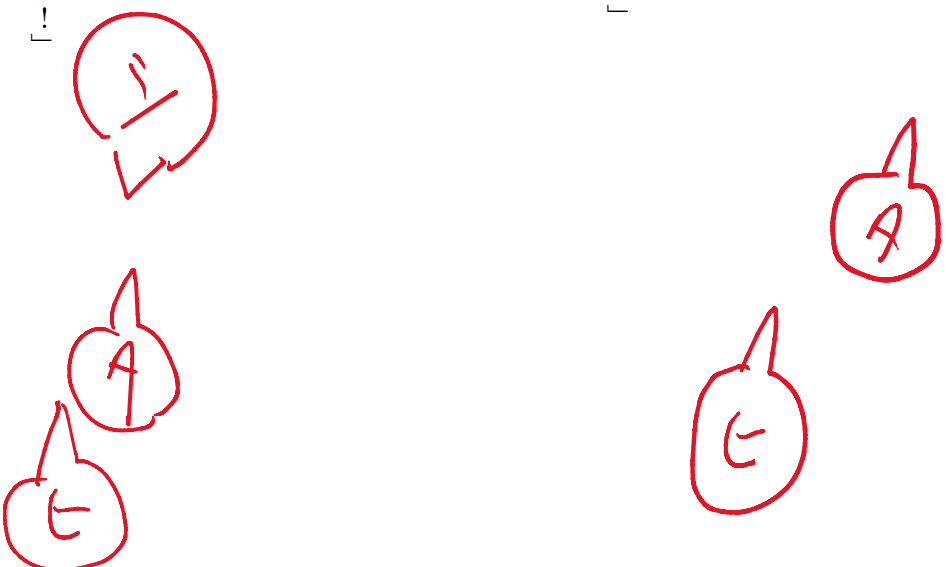
【16 26の間】

使用人「ま、将様!?

なんです急に、先触れもなしに、こんな時間に！」

鷹司「電話ではちょっと説明しにくくてね。

父さんは起きてるか？」



【16と9の間】

使用人「自室でくつろいでおいでですが……

【いぶかってヒロインを見る】そちらのご婦人は？

【破けた服に気づく】なんという……よもや暴漢に!？」

【8 ヒロインに背を向けて】

鷹司「いや、これは僕が破いた」

使用人「将様が乱暴を!？」

鷹司「玄関先ですべて説明させる気かい？

とにかく、彼女を風呂に入れて、

甘いものでも用意してやってくれ」

使用人「は、これは、いやその……おっしゃる通りで。

私としたことが、気が動転いたしました」

鷹司「大切に扱ってくれよ。

明日、彼女と入籍するんだからな」

使用人「入籍を!？」

鷹司「血圧を上げすぎると倒れるぞ。

もう六十五なんだ。

僕は父さんに結婚の挨拶を済ませてくる」

【7】

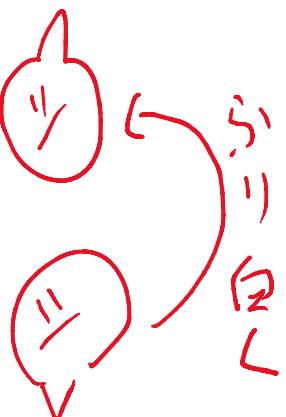
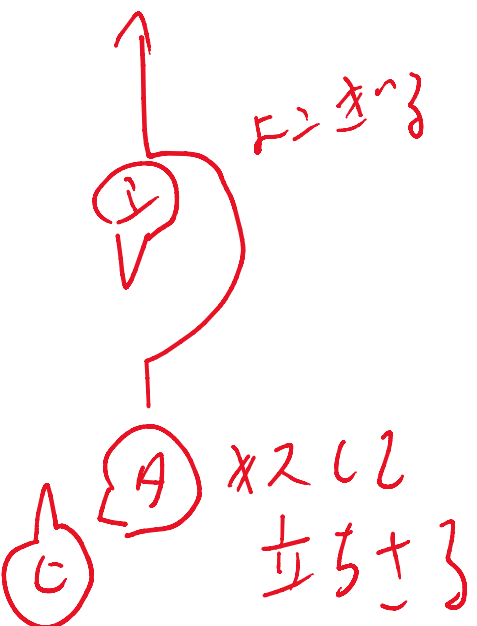
鷹司「じゃあ、あとでね【頬にキス】」

使用人「あ、え?! ちょっと、将様……!」

【鷹司、立ち去る】

SE:靴を脱ぐ

SE:歩き去る



1 【9】

2 使用人「あー……この度はそのう……」

3 【切り替えて】まことにおめでどうございます」

4 【ヒロイン「受け入れるんですね」

5 使用人「何をおっしゃいますか。

6 受け入れるも、受け入れないも、

7 使用人に口出しできることではございません。

8 どうぞこちらへ。お部屋にご案内いたします」

9 【使用人、ヒロインを、後ずさり気味で玄関に導く】

10 使用人「そこでお履き物をお脱ぎになって。

11 足が冷えますから、どうぞスリッパを」

12 【9 ヒロインに背を向けて】

13 使用人【屋敷の者たちへ】おおい、誰か！

14 ヒバリの間を整えておいてくれ！

15 将様が奥様を連れて戻られた！」

16 SE:靴を脱ぐ

17 SE:スリッパをはく

18 【使用人、ヒロインに先立って歩き出す】

19 【9 ヒロインに背を向けて】

20 使用人「今、急ぎで奥方様のための部屋を整えさせますので、

21 しばし客間にておくつろぎください。

22 客間に浴衣が置いてありますので、

23 まずはそのちらにお着替えを」

24 使用人「しかし、明日ご入籍とは……。

25 わたくしどもよりも、奥様の方がよほど驚かれたのでは？

26 旦那様のご結婚もそれは急なものでしたが、

27 将様は輪をかけてひどい……ああいや、つまりその、性急で」



1 使用人「どうか、ご勘弁いただきたい。
2 鷹司家の男の性分とでも申しませうか……
3 容姿も家柄も関係なしで、ある日「この人」と決めたら
4 その女性の事しか考えられなくなる」

5 使用人「大旦那様——ああ、ええと、将様のおじいさまですね。
6 とにかくその方が言うには、
7 “愛した女性を幸福にするために、鷹司家は栄えたのだ” そうです。
8 もちろん、信じられない話ですとも。
9 しかしこうして、将様も突然あなた様を連れてこられた」

10 SE:足音ストップ

11 【9 ヒロインに振り向きながら】
12 使用人「こちらの部屋でございます」

13 SE:ふすまが開く

14 【9 ヒロインを見て】
15 使用人「何か用事ございましたら、部屋にあるベルをお鳴らし下さい。
16 使用人の誰かがすぐに伺いますので」

17 SE:ヒロインの足音

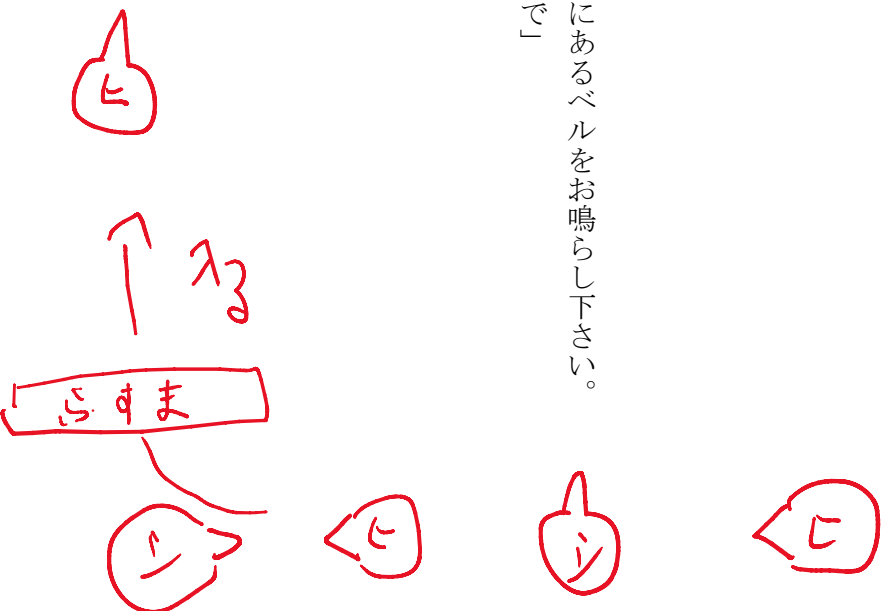
18 【13】
19 使用人「それでは、わたくしはこれで」

20 SE:ふすまが締まる

21 SE:立ち去っていく足音

22 間

23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36



1 【ヒロインが風呂上がりに部屋でくつろいでいると、鷹司がやってくる】

2 SE:虫の声フェードイン

3 SE:近づいてくる足音

4 【11 遠くから】

5 鷹司「僕だ。」

6 使用人から、もう風呂から戻っていると聞いてね。

7 開けてもかまわないかな？

8 —うん、ありがとう」

9 SE:ふすまが開く

10 【鷹司、ぼんやりと窓辺に座っているヒロインに歩み寄り、座る】

11 SE:近づいてくる足音

12 SE:座る

13 【11】

14 鷹司「父に結婚の報告をしてきたよ。」

15 明日、役所に書類を出しに行こう。

16 結婚式も、披露宴も、君が望まない限りはしないつもりだ。

17 君は今、人目にさらされることに疲れてるし、

18 破滅的な行動を求めている。

19 ここで好きだけ寝て、好きなものを食べて、

20 ほしい物を欲しいだけ手に入れて……

21 暇すぎて死にそうになったら、

22 新婚旅行にでも出かけよう」

23 【鷹司、少しも晴れないヒロインの表情に少し困る】

24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

ヒ

ふすま

4

←

4

1 【11】

2 鷹司「ふむ……君を笑顔にさせるには、
3 まだ足りないみたいだな。
4 それじゃあ、一つゲームをしてみないか。
5 絶対こんなこと実現できないだろうってことを、
6 僕に命じてくれ。かぐや姫のようにね。
7 きつとかなえてみせるから」
8

9 【ヒロイン、鷹司を見る】

10 【ヒロイン「じゃあ世界を滅ぼして」】
11

12 SE：ヒロインの衣擦れ
13

14 【9】

15 鷹司「え？ ああ……
16 ツふ……はは！ あっはっはっはっは！
17 せ、世界を？ 滅ぼしたいのかい？
18 あーっはっはっは！
19 ああ、いいよ。面白そうだ。
20 ちようど「いい人」でいるのにも、
21 少し飽きていたところだ」
22

23 鷹司「そうと決まれば、忙しくなるぞ。
24 毒を作ろう。それが一番手っ取り早い。
25 あとは、それをどう拡散するかだなあ。
26 気づかれないように少しずつ、
27 じわじわ人を滅らしていこう」
28

29 【ヒロイン「やっぱりいい」】
30

31 SE：ヒロインの衣擦れ
32

33
34
35
36

1 【9】

2 鷹司「ん……？ そうか。

3 気が変わったなら、それもいい。

4 もう少し“いい人”でいるとしよう。

5 それじゃあ、ほかに無理難題は？

6 世界を滅ぼす以上のものがない」

7
8 【ヒロイン「私を幸せにして」】

9
10 SE：ヒロインの衣擦れ

11
12 【鷹司、はっとして一瞬黙る】

13
14 鷹司「君を、幸せに……か。

15 そうだね。きっとそれが一番難しい。

16 けど、やりがいがある。

17 楽しみにしていてくれ。

18 【笑顔で】僕がきつと、君に“幸せだ”と言わせてみせるから」

19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

●トラック3 君が望む罰

ヒロインが自殺を試みたと連絡を受け、慌てて戻ってくる鷹司。
「何の理由もなく、自分の存在が罪だと感じる、死なせてくれ」懇願する
ヒロインを必死になだめ、ヒロインの望むままに罰を与えることを承諾する。

時刻：夕方

場所：鷹司家

【ヒロインが脱走し、自殺未遂したと連絡を受けた鷹司が大慌てで帰ってくる、玄関で使用人が待っており、事情を聴きながらヒロインの部屋に向かう】

SE:廊下を速足で歩く×2

※セリフここからフェードイン

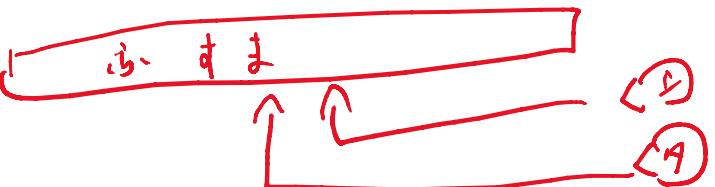
【6】
鷹司「どうして自殺未遂なんて話になるんだ!?
昨日までいつも通りだったのに」

【6】
使用人「わかりません!
理由を伺っても“死なせてくれ”としかおっしゃらず」

鷹司「ケガは？」
使用人「いざいませんですが、
とにかく暴れて、我々にはどうにもできませんで」

SE:ふすまが勢いよくあく

【ふすまを開けると、床の間の柱に縛られているヒロインが目に入る】



1
2
3 【6】
4 鷹司「なんてことを……！」
5 柱に縛りつけるなんて！」

6
7 SE: 駆け寄りしめる

8
9 【1】
10 鷹司「今ほどいてあげるからね。
11 どこか痛いところはないかい？」

12
13 SE: 鷹司を止める衣擦れ

14
15 【6】
16 使用人「いけません！
17 ほどくと壁にひどく頭をぶついたり、
18 刃物を探して自分に突き立てようとしたり、
19 奥様の身が危ないのです！
20 くつわを外せばこの方は舌を噛みます！」

21
22 【1】
23 鷹司「彼女はもう落ち着いてる！
24 それくらい見ればわかるだろう！
25 【一 拍置いて】
26 彼女はもう大丈夫だ。二人きりにしてくれ」

27
28 使用人「しかし……！」
29
30 鷹司「頼むよ。
31 命令はしたくないんだ」

32
33 使用人【諦めのため息】わかりました。
34 何かあればお呼びください」

35
36

E

A

i

1 SE:立ち去る足音

2 SE:ふすま閉める

3 SE:立ち去る足音

4

5 【1】

6 鷹司「まず、くつわをはずすからね」

7

8 SE:ちるぐつわ外す

9

10 鷹司「ほら、これでいい。

11 ねえ、どうして——」

12

13 【ヒロイン「死なせて」】

14

15 鷹司【少し笑って】話せるようになった途端にそれか。

16 どうしてそんなに死にたがるんだ。

17 今の君の人生に、何も不安はないだろう」

18

19 【ヒロイン「生きていることが罪だと感じる」】

20

21 鷹司「わからないな。

22 君は何も罪なんて犯していない。

23 生きてることが罪なんてありえない。

24 何が君にそんな風に思わせるんだい？

25 何が君を苦しめてる。

26 僕は君に何をしてあげられる？

27 頼むよ、教えてくれ。

28 僕は君を失いたくないんだ」

29

30 【ヒロイン「私を罰して」】

31

32 鷹司「え……？」

33 【困惑して】それが、君の望みなのか？

34 僕から罰を受けることが？」

35

36

1 【鷹司、〃死を選ぼうとするたびに罰して苦痛を与えれば、自分の存在を
2 罪だと感じるヒロインが贖罪を得られて安心するのだ〃と理解して受け入
3 れる】

4
5 【1】

6 鷹司「【理解できた安堵】そう……そうか。
7 そうだったんだね」

8
9 鷹司「まったく……すっかり間違えてしまったなあ。

10 君を甘やかして、

11 苦痛を取り払うのが正解だと思っていたのに、
12 そうか、逆だったのだね」

13
14 鷹司「早速、君に似合う足かせを用意しよう。

15 鳥かごを用意して閉じ込めよう。

16 君が馬鹿な行いをしようとはんのわずかに想像するたびに、
17 君に耐えがたい苦痛を与えてあげる」

18
19 鷹司「手始めに、今回の罰から始めようか。

20 さて、どんな罰がいいかな」

21
22 【鷹司、タバコを取り出して火をつける】

23
24 SE：タバコ出す

25 SE：ジッポで火をつける

26 SE：ジッポをしまう

27
28 鷹司「深く煙を吸い込み、吐き出す】

29 せっかく縛られているのだから、

30 このまま一晩過ごすといい。

31 大丈夫、水と食料は僕が口移しで与えてあげる。

32 トイレの世話も僕がしよう。

33 僕が朝まで付き添うよ。

34 君がほどこいてくれと泣きわめくのを、

35 ずっとそばで見ている」

36

1 【1】
2 鷹司「ああ、そうだ。
3 そろそろ喉が渴いただろう。
4 少し水分をあげようね」
5

6 【鷹司、ヒロインにイラマさせるために立ち上がる（音的にはなくていい
7 ですが、ここで一回くわえたばこに切り替え、ファスナーおろしたらまた
8 手にタバコ持ちます）】
9

10 SE:立ち上がる

11 SE:ベルトはずす

12 SE:ファスナーおろす

13
14 【1 上から】

15 鷹司「しやぶりなさい。

16 一番奥までくわえ込んで、
17 喉で僕を愛撫してごらん」
18

19 【ヒロイン「できない」】
20

21 鷹司「できないわけがないだろう。

22 口を開いて、ほら……
23 こうやって、のどの奥までくわえるんだ」
24

25 【鷹司、ヒロインの頭をつかんで喉の奥まで突っ込む】
26

27 SE:くわえる水音

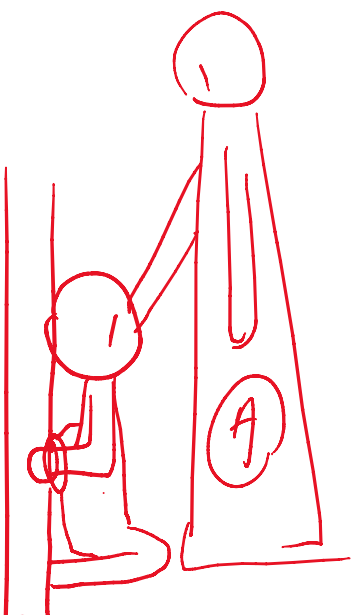
28 SE:暴れる衣擦れ

29
30 鷹司「そんなに暴れて、苦しいかい？

31 残念だけど、この程度の苦痛では死ねないよ。
32 そら、これからもっと苦しくなる」
33

34 SE:激しめのイラマ

35
36 【喉奥責めるイラマ30秒程度ください】



1 【1 上から】

2 鷹司「はあ……あぁ……！」

3 君が、吐きそうになるたびに、
4 喉が僕を押し返そうとして、
5 しまつて、うねって……いい具合だ。
6 君が気絶するまでこうしてられる」

7
8 鷹司「終わらせてほしければ、

9 泣いてないでしゃぶるんだ。

10 口をすぼめて、舌を這わせて、

11 ほら、がんばれ、がんばれ」

12
13 鷹司「いいぞ、よくなってきた。

14 そろそろ出すぞ……！」

15 吐き出さずに、全部飲み込むんだ」

16
17 【終わりに向けての激しめの吐息ください 秒数お任せします】

18
19 鷹司「くっ……あぁ……！」【射精】

20
21 SE: 抜く水音

22
23 鷹司【深く息を吐く】ふー……

24 ちゃんと飲み込めたようだね。

25 偉い子だなあ、君は。

26 ちゃんと反省しているんだね」

27
28 SE: しゃがむ衣擦れ

29
30 【鷹司、再びしゃがんでヒロインの顔をぬぐう】

31
32 【1】

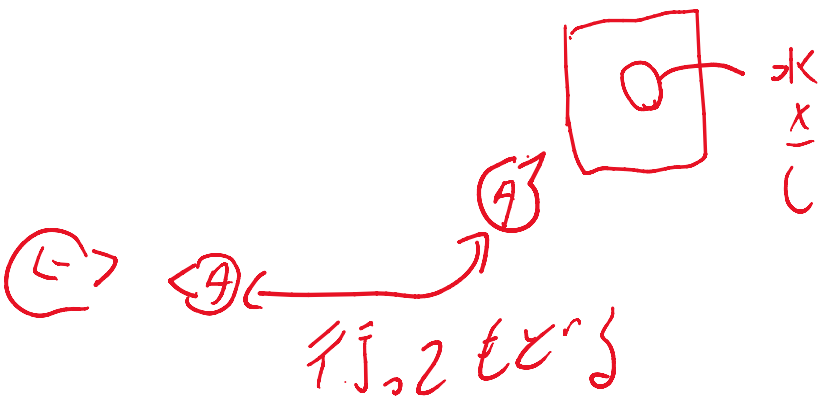
33 鷹司「あーあ、涙と鼻水でぐちゃぐちゃだ。

34 まるで子供みたいな泣き顔だね。

35 かわいいな、かわいい。

36 舐めとつてあげる【涙を舐める】」

1 【1】
 2 鷹司「水が欲しい？」
 3 いいよ。少し待ってて。
 4 ちょうど、タバコも限界だ」
 5
 6 SE:立ち上がる
 7 SE:離れる足音
 8
 9 【鷹司、棚の上に水差しからコップに水をそそぐ】
 10
 11 SE:水を灌ぐ
 12 SE:近づいてくる足音
 13 SE:しやがむ衣擦れ
 14
 15 【1】
 16 鷹司「約束通り、口移しで飲ませてあげる。
 17 ほら、口を開けて」
 18
 19 【鷹司、水を含み、口うつしで飲ませる】
 20
 21 鷹司「もう一口」
 22
 23 【鷹司、水を含み、口うつしで飲ませる】
 24
 25 鷹司「ん？ もっとキスしていたい？
 26 いいとも。頑張ったご褒美だ」
 27
 28 【30秒ほどディープキスのリップ音ください】
 29
 30 鷹司「まったく…：そんなにうっとりした顔をして。
 31 まさか、痛めつけられて股を濡らして
 32 いるんじゃないだろうね。
 33 どれ、確認してやろう」
 34
 35 SE:衣擦れ
 36 SE:触れる水音



1 【1→7】

2 鷹司「ああ、やっぱり。

3 随分と“お仕置き”を楽しんだようだ。

4 こんなにあっさり、僕の指を飲み込んでしまうなんてね。
5 けど……」

6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
SE:指を出し入れする水音 100BPM 程度

【7】

鷹司「こんなものでは足りないんだろう？

君のここは、もっと激しく、

もっと奥に、と泣いている。

痛いくらい乱暴にかき回して、

硬くどがったクリトリスに、爪を立ててあげる。

ほら、こうやって」

SE:指を出し入れする水音 150BPM 程度

SE:暴れる衣擦れ

SE:柱が軋む音

鷹司「なんだ、もういったのか。

こらえ性のない体だな。

まだまだ始まったばかりだというのに

もっともっとよくしてあげよう。

耳の奥まで舌をねじ込んで、鼓膜まで愛撫してやる」

【耳舐め30秒程度お願いします】

【ヒロイン、やめてくれと懇願する】

鷹司「【含み笑いしつつ】やめる？ どうして？

もうイってるから、なんだ？

そんなのあたりまえだろう。

イかせてるんだ。

いきたくないなら、我慢すればいい。

なんて、言ってる間にもまたイってるなあ」

1 【7】
2 鷹司「そんなに必死に身もだえたって、
3 縄がほどけるわけないだろう」
4

5 鷹司【囁くように】無駄だよ。

6 君のすることはすべて無駄になる。
7 君が死のうとするたびに、
8 僕は君に死ぬより辛い罰を与える」
9 だけど決して死なせはしない。
10 たとえ君が首だけになって、
11 死なせてくれと泣き続けてもね」
12

13 【ヒロイン、悲鳴を上げて一瞬失神する】
14

15 SE: 激しめの衣擦れ

16 SE: 水音、柱の軋みストップ
17

18 【1】

19 鷹司「うん……？
20 なんだ、気を失ったか。
21 死なせてくれと喚いたわりに、
22 随分と情けない」
23

24 SE: 体位変える衣擦れ
25

26 【鷹司、ヒロインの両脚を抱え上げ、その顔を覗き込み、頬を軽くたたく】
27

28 SE: へち。へち
29

30 鷹司「へばっていないで、目を覚まさない。
31 まだ気を失っていいとは言っていないだろう。
32 そら、一気にいくぞ」
33

34 SE: 入れる水音
35
36



1 【1】
2 鷹司「ッ……く。気絶してたくせに、
3 入れただけで随分派手にいくものだ。
4 気を抜くと、君を罰する前に
5 僕が根こそぎ持っていかれそうだな」

6
7 【ヒロイン、「抜いて」とわめく】
8

9 SE：暴れる衣擦れ

10 SE：柱が軋む

11

12 【1】

13 鷹司「抜いてほしい？

14 もちろんだ、君が望むとおりにするよ。
15 何度でも抜いて、何度でも貫いてやる」

16

17 【責め立てる感じの激しい吐息1分ほどください】
18

19 SE：出し入れする水音

20 SE：肉を打つ音

21

22 鷹司「ああ、ひどい声だな。

23 その声、その顔。
24 たまらなく煽られる。

25

26 これ以上僕の加虐心をあおってどうする気だ？
27 まだいじめられたりない？
28 じゃあ、次は呼吸を奪おうか」

29 【キスハメ1分程度で、キスしたまま終わってください】
30

31 【鷹司、唇が触れ合う位置で、しばし苦しげに呼吸整える】
32

33 SE：抜く水音

34

35 【鷹司、快楽の余韻に震えて泣くヒロインを優しく甘やかす】
36

1
2
3 SE:ヒロインの頭をなでる

4 【3 耳元で】

5 鷹司「よーしよし、いい子だ、いい子。

6 もう大丈夫だから、ゆっくり息をして。

7 深く、ゆっくり……ゆっくりだ。」

8
9 鷹司「今、どんな気分だい？

10 まだ死にたい？」

11
12 【ヒロイン「眠い」】

13
14 【3】

15 鷹司「よかった。

16 なら、ゆっくりお休み。

17 次に目が覚めるとき、

18 君は決して出られない檻の中だ。

19 さようならを言うといい。

20 今までの人生と、外の世界に」

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

●トラック4 監禁生活

監禁のための部屋を整えた鷹司は、ヒロインに生活のルールを教える

場所・ヒロインの部屋

時間・夕方

【ヒロイン、布団で目を覚ます】

SE:衣擦れ

SE:鎖の音

【鷹司、タバコをふかしながら、起き上がったヒロインの足元に座っている】

【6】

鷹司「煙草を吸って吐く」

目が覚めたかい？

よく眠っていたね。おかげで、すべて順調に整えられたよ」

【ヒロイン、部屋を見回す】

SE:衣擦れ

SE:鎖の音

鷹司「案外、普通の部屋に見えるだろう？

だが、窓ははめ殺しの強化ガラスだし、

ふすまの向こうには外から鍵のかかるドアがあるし、

君の足には見えての通り、決して外れない足かせだ」

鷹司「固い物も、するどい物も、この部屋にはおいていない。

服や布団を引き裂いて首をつるための紐を作っても、

紐を括り付ける場所がない」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【6】
鷹司「箸やフォーク、ナイフは危険だから、
スプーンや手づかみで食べてもらう。
もし食べずに体力が落ちるようなら、
喉の奥に管を押し込んで、流動食を流し込む。
尻から栄養剤を注入する方法もあるようだが……
僕としては、美味しい食事を味わって
ほしいと思っているよ」

鷹司「【タバコ吸って吐く】
ここまでで、何か質問は？」

【ヒロイン「お風呂とトイレはどうするの？」】

鷹司「ああ、それは使用人の力を借りることになる。
ベルを鳴らせば使用人が来てくれるから、
風呂もトイレも彼らに連れて行ってもらうといい。
必要なら部屋に作らせることもできるけどね。
今、僕たちが過ごすための新しい家を設計してるから、
半年もすればもう少し快適に過ごせるようになるはずだ」

【ヒロイン「どうしてここまでしてくれるの？」】

鷹司「理由？ 決まってるだろう。
大切な妻を守るためだ。
【最後に軽く吸って吐く】
——おいで【タバコ消す】」

SE:灰皿にタバコを押し付ける

【鷹司、ヒロインを抱き寄せ、背後から抱きしめる】

SE:鎖の音

SE:抱きしめる衣擦れ

1 【4 背後から】

2 鷹司「君はまだ疑っているのだろうか、
3 僕が君を愛しているのは紛れもない事実だ。
4 理由もないし、理屈もない。
5 ただ、僕のすべてが君を欲しいと叫んでる」

6 鷹司「怖いかい？」

7 さぞ、不気味に感じるだろうね。
8 本当のことを言うと、僕も怖いんだ。
9 君と出会った以前のことを、
10 なぜかほとんど思い出せなくて。
11 何を樂しみに生きていたのか、
12 何がうれしかったのか……。
13 君が存在しなかった世界に、もう何の意味も感じられない。
14 君を失ったら、僕はきつと壊れてしまう」

15 鷹司「君はよく、なぜとか、どうしてとか、
16 理由がないとか言うけれど…」

17 僕は、僕のために君を幸せにしたい」

18 鷹司「そのためなら、僕はなんだってしてみせる。
19 【冗談めかして】君をこうして監禁することだってね」



20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

●トラック5 幸せ家族計画

1 トラック4から半年。
2 ヒロインと鷹司のための新居が完成する。
3 引っ越し当日、ヒロインが「子供が欲しい」と言い出し、鷹司はこれを承
4 諾。

5
6
7
8
9 時間：朝

10 場所：屋内
11

12 【鷹司、ヒロインに目隠しをして室内につれてくる】
13

14 SE:ドア開く

15 SE:二人分の足音
16

17 【1】

18 鷹司「さあ、ドアを開けた。

19 そのまままっすぐ歩いて、部屋の中央へ。

20 そう、このあたりだ。

21 【5に回りながら】じゃあ、目隠しをとるよ」
22

23 SE:布の目隠し外す
24

25 【5】

26 鷹司「ようこそ、僕たちの新居へ」
27

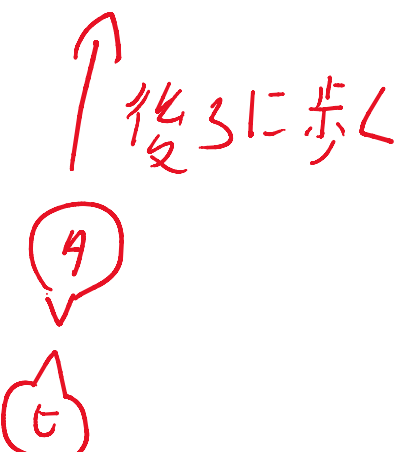
28 【4 背後から】

29 鷹司「今日からここが君の部屋だ。

30 君の要望通りフローリングにしたけど、
31 少し柔らかいだろう？

32 病院に相談して、転んでもけがをしにくい
33 床で作らせたんだ。

34 壁も同じで、クッション性がある」
35



【4 背後から】

鷹司「ベッドもソファも、危険が少ないように特注で作らせた。
テーブルも布張りで綿を詰めてある。
安全性と引き換えに、トレーがないと不安定で
使いにくいけど、そこは我慢するしかないな」

【4↓9に回って、ヒロインに背を向け部屋を見回す】

鷹司「風を感じたい日もあるだろうから、
窓は少しだけ開くように設計してある。
その壁にボタンがあるから、
何か用事があったら押せば使用人が来てくれる。
トイレとシャワールームも、この部屋の中に用意した。
一軒家の中にアパートがあるような形だね。
溺死の危険があるからと、
湯舟の許可は医者からおりなかったけど、
使用人に頼めば一階の浴室が使えるし…」

【9 ヒロインを見て】

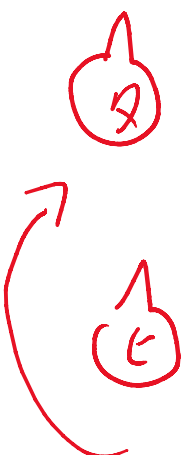
鷹司「もちろん、毎晩僕と入っても構わないよ」

【ヒロイン「ほかの部屋は？」】

鷹司「他の？ ああ、二階にはこの部屋と、
僕の書斎と寝室がある。
君にも一人で過ごしたい日があるだろうからね。
一階にはリビングと台所、
それに納戸が一つと、使用人の部屋が一つと、
空き部屋が三つ」

【ヒロイン「空き部屋って？」】

鷹司「ん？
ああ、空き部屋の用途を特段考えたことはなかったけど……
まあ、部屋が多くて困ることはないからね。
君の気が向いたら、趣味の部屋に改築してもいいし」



【13】

使用人「明るく」将来的には、

子供部屋も必要でございますからねえ」

【9 ヒロインの背後に向かって】

鷹司「少し慌てて」その話はまだしなくていい！」

【ヒロイン、使用人に振り向く】

【9】

使用人「ああ、いや、失礼いたしました。

しかしそのう……もう楽しみで楽しみで！

私などは、将様がお生まれになるずっと以前より

この家に仕えておりますから、

そりやもう初孫を待つような心持でして」

【13】

鷹司「誰がどれほど期待をかけたとしても、

それは僕たちの問題だ。

まだ二人の時間を大事にしたいし、

避妊をやめるつもりはないよ。

大体、どうするつもりなんだ、僕が種無しだったら」

使用人「その時はその時でございますよ。

それでは、奥様の世話係を呼んでまいりますので」

SE:立ち去る足音

SE:階段を下りていく

【9】

鷹司「深いため息」すまないね。無神経なジジイで。

クビにしてこようか？」

【ヒロイン「子供がいれば、生きてる意味がわかる？」】

36



立ち去る



1 SE:ヒロインの衣擦れ

2
3 【鷹司、ヒロインの真剣な物言いにぎくりとする】

4
5 【6】

6 鷹司「それは……難しい質問だね。

7 子供が生きがいになる人というのは、

8 確かにとても多いと思う。

9 けど、誰もがそうというわけじゃない」

10
11 【ヒロイン「あなたは？」】

12
13 鷹司「僕？ 僕は……」

14 【困って】わからないんだ。恥ずかしいことにね。

15 おいで。ソファに座ろう。

16 立ってするほど気軽な話じゃなさそうだ」

17
18 【鷹司、ソファに座る。その左隣にヒロインが座る】

19
20 SE:鷹司の足音

21 SE:鷹司がソファに座る

22 SE:ヒロインの足音

23 SE:ヒロインがソファに座る

24
25 【鷹司、たばこに火をつける】

26
27 SE:タバコセット出す

28 SE:オイルライターで火をつける

29 SE:オイルライター消す

30 SE:タバコセットをテーブルに置く

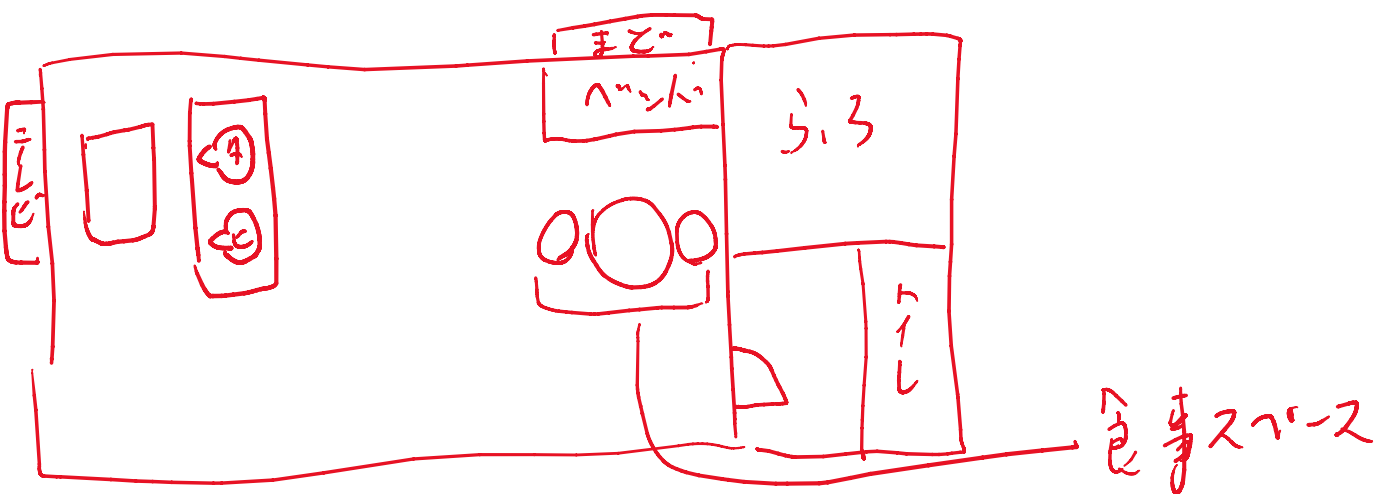
31
32 【ヒロインの肩を抱き、二人で正面を見ながら話す】

33

34

35

36



1 【7 肩を抱く距離】

2 鷹司「煙草を吸って吐く」

3 正直に言ってしまったら、今の僕には君の幸せ以外考えられない。

4 子供ができて君が幸せになるなら、ぜひ欲しいさ。

5 けど君がもし苦しむなら、生涯子供を望むことはない」

6 【ヒロイン「跡取りは？」】

7 【消すまで適宜タバコふかしつつ読んでください】

8 鷹司「軽く笑って」跡取りなんて、養子を迎えればいいさ。

9 長く続く鷹司家の歴史の中で、

10 優秀な若者を養子に迎えたことは何度もある」

11 鷹司「まっすぐに『君との子供が欲しい』と言えない僕を、

12 意気地なしと罵ってくれてもいい。

13 君一人に選択をゆだねるのは卑怯かもしれない。

14 けれど、君に嘘を言うことはできないんだ」

15 【ヒロイン「私が大いなる母でも、子供は幸せになれる？」】

16 鷹司「幸せ……幸せか。それも難しい質問だね。

17 僕は君に似て現実主義者だ。

18 まだ生まれてもない子供が絶対に幸せになれると断言はできない。

19 けれど、子供の幸せのために心血を注ぐと誓うことはできる。

20 子供たちには十分な教育を受けさせるし、

21 鷹司家の人間は子供たちを溺愛する。

22 さっきのジジイを思い出してごらん。

23 まるで自分が子供を産むような勢いだった」

24 【ヒロイン、少し安心する】

25 SE:タバコ消す

26 ※シガレットケースに押し付けて消すので灰皿の音なしで大丈夫です



1 【7 ヒロインを見て】

2 鷹司「それで——君はどうしたい？」

3

4 【ヒロイン「ためしてみたい」】

5

6 【1】

7

鷹司「そうか……」

8

【明るく】それじゃあ、試してみよう。

9

おいで！ 早速今からはじめよう」

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36



●トラック6 幸せな未来へ

トラック5の続き
ベッドでいつくしみあういちゃいちゃセックストラックです

SE:ベッドの軋み

【鷹司、ベッドにヒロインを横たえる】

【1】

鷹司「不思議な気分だな。
もう何度となく君を抱いてきたけど、
今日が初めてという気がする」

鷹司「深夜のビルで見る君も、
縛られ、泣きむせぶ君もきれいだっただが……
こうして、まっすぐ僕を見ている君が一番きれいだ。
キスさせてくれ。君の体全部に」

【うなじからおなかに向かって、全身にキスするリップ音30秒程度くだ
わら】

【ヒロイン「私からほしい」】

【1 下から】

鷹司「え？ それはそれは……光荣だな。
君が僕に奉仕してくれるなんて」

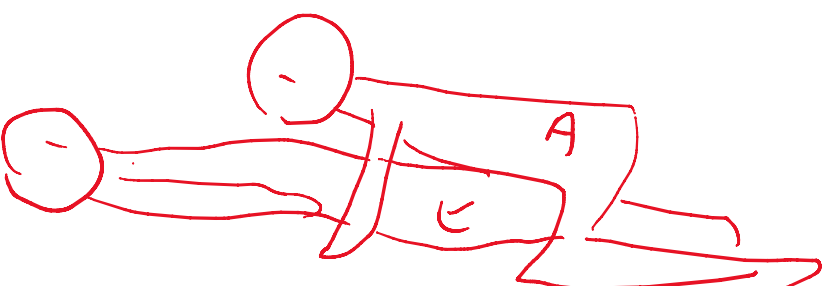
【鷹司、ヒロインの顔に近づく】

SE:体勢かえる衣擦れ

SE:ベッドの軋み

【3 耳元で】

鷹司「なんなら、君も僕を縛ってみるかいい？」



【1】

鷹司「冗談だよ、冗談。

僕は弱い男だからね。

君に責め立てられたら五秒と持たずに泣き出してしまおう」

鷹司「ほら、やりやすいように場所を替わろう。

僕がおむけになるから、

君の好きにしてみるといい」

SE: 体勢かえる衣擦れ

SE: ベッドの軋み

【鷹司、どこから手を付けていいかわからないヒロインを優しく教え導く】

【1 少し離れて】

鷹司「まずは服を脱がせてごらん。

ボタンをはずして、そう、最後まで、全部だ」

SE: ボタン外す

鷹司「シャツをはだけさせて、僕の体にキスをして。

優しく唇で触れても、強くかんでもいい。

舐めれば僕に情けない声をあげさせられるかもしれないな。

僕に愛撫しながら、ベルトをはずして」

SE: ベルトカチャカチャ (手間取って眺めに)

鷹司「ああ、はずし方がわからないか。

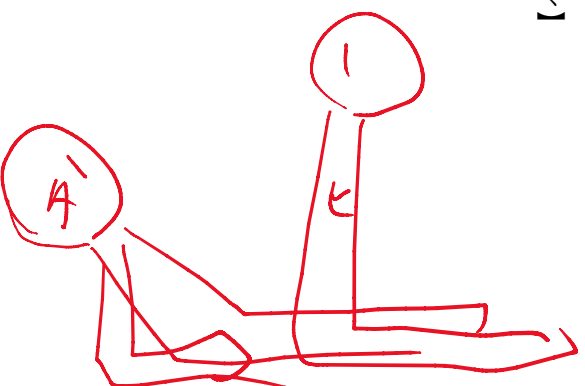
手伝うよ。少し下にずれてくれ。体を起こすから。

ほら、こうやってバックルの留め具を緩めて……」

SE: 衣擦れ

SE: ベッドの軋み

SE: ベルト外れる



1 【1 少し離れて】

2 鷹司「ほら、外れた。

3 そうしたら、ファスナーを下ろして、
4 中に手を入れてごらん」

5
6 SE:ファスナーをはずす

7 SE:衣擦れ

8
9 鷹司「そう……わかるだろう？」

10 もう固くなって、君の中に入りたくて震えてる」

11
12 【ヒロイン「これ、どうしたらいい？」】

13
14 【1→7 耳元】

15 鷹司「うん？ 次は、そうだな……」

16 【ヒロインを抱き寄せながら】体をもっとこっちへ寄せて、
17 君のおいをかがせてくれ」

18
19 【7】

20 鷹司「そのまま、強く握ってごらん。

21 もっと強く。そう、そのくらいだ。

22 つはは……ああ、すまない、少しこれは……
23 思ってたより、くるな。

24 そのまま上下に動かして」

25
26 SE:ゆっくり手コキ

27
28 鷹司「はっ……はっ……くッ……」

29 もっと速く……じらさないでくれ」

30
31 SE:手コキ150BPM程度で

32
33 【鷹司、責め立てられる苦しげな吐息30秒程度】

34
35 【ヒロイン「気持ちいい？」】

36



【7】

鷹司「ああ、気持ちいいよ。

見てわからないか？

油断すると、声が出る……うあっ!？」

SE:衣擦れ

SE:手コキストップ

【鷹司、慌ててヒロインの手を引きはがす】

【1】

鷹司「こら、いたずらはやめなさい。

どこでそんなこと覚えてきたんだっ……!」

【ヒロイン「知りたい?」】

鷹司「……いや、だめだ。知りたくない。

昔の男なんて言われたら、正気を保てる自信がない。
それよりも」

【鷹司、改めてヒロインにのしかかる】

SE:体勢かえる衣擦れ

SE:ベッドに押し倒す

SE:ベッドの軋み

【8】

鷹司「今度は僕がご奉仕を返すばんだな」

【30秒程度耳舐めお願いします】

鷹司「んー? どうしたんだ、そんなにもがいて。

知らなかったな、耳がそんなに感じやすいなんて。

ほら、耳をなめながら、

もっと気持ちいいところもいじってあげよう」



1 【3】
2 鷹司「さっきから、触ってほしそうにしてる、
3 この固く上がった乳首…」

4
5 SE:軽く触る

6 SE:ベッドの軋み

7
8 鷹司「ふふ。爪の先がかすっただけで、
9 そんなに体をはねさせて。
10 つまんで、転がしたら、それだけでいきそうじゃないか。
11 僕に聞かせてくれ。
12 もどかしげに腰をくねらせながら、
13 物足りない刺激で浅くいき続ける君の鳴き声を」

14
15 【30秒程度耳舐めお願いします】

16
17 SE:ヒロイン絶頂の衣擦れ

18
19 鷹司「おっと。思ったより激しくいったな。
20 んー？ ねえ、自分で気づいてるかい？
21 【ささやき】僕が耳元でしゃべるたびに、
22 軽くイってつま先がはねてる。
23 かわいいなあ、君は。本当にかわいい」

24
25 【1】

26 鷹司「ああ、そうだな。
27 もう入れてほしいな。
28 もっと深く、戻れないくらい深い絶頂が欲しいんだろう？
29 足を開いて、腰を振ってねだってごらん。
30 将さん、愛してる、奥に入れて、中に出してって」

31
32 【ヒロイン、復唱する】

33
34 鷹司【しみじみと】ああ……いいな。
35 ようやく聞けた君から言われる「愛してる」は、
36 どんな愛撫より僕を高ぶらせる【いい終わりに入れる】

1
2 SE:奥まで入れる水音

3 SE:衣擦れ

4 SE:ベッドの軋み

5
6 【鷹司、ヒロインの最奥でしばしとどまり、乱れるヒロインの様子を見る】

7
8 【1】

9 鷹司「ふっ……く……ああ、キツいな。

10 君の体が、僕の体を求めているのがわかるよ。

11 絡みついて、締め付けて……奥に出せてせっついている。

12 もう少しこのまま、奥をゆっくりなぶろうか。

13 貫かず、押すように、ゆっくり、ゆっくり……」

14
15 SE:ヒロインが絶頂する衣擦れ

16 SE:ベッドの軋み

17
18 鷹司「またいった？ もがいてもだめだよ。

19 腰は僕がつかんです。

20 このままもう2、3回いっておこうか。

21 そうすれば、僕が動くたびにイける体になるだろう？」

22
23 【ヒロイン、やめてと泣く】

24
25 鷹司「ああ、よしよし泣かないで。

26 ほら、少しだけゆすってあげる。

27 そうすれば」

28
29 SE:ヒロインが絶頂する衣擦れ

30 SE:ベッドの軋み

31
32 【3 耳元】

33 鷹司「ほら、もうイけた。

34 開きっぱなしの口からよだれがあふれて、

35 もったいないな……僕が飲んであげる」

36

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【ディープキス30秒程度ください】

SE:ヒロインが絶頂する衣擦れ

SE:ベッドの軋み

【1】

鷹司「ああ、キスだけでイけたね。

そろそろ準備が整ったみたいだ」

【ヒロイン「待って」】

鷹司「待たないよ。待ったら意味がないだろう。

せっかくここまで仕上がったんだ。

あとは気を失うまで快楽をむさぼればいい。

そら、動くぞ」

SE:出し入れする水音

SE:パンパン

【1 激しく責め立てながら】

鷹司「ああ、ひと突きごとに、締まって、うねって……！

だめだな、こんな……抑えがきかない……！」

【吐息のみ30秒程度ください】

【ヒロイン「もう無理、やめて」】

【7】

鷹司「だめだ、やめないよ。

やめない、やめない、やめない」

【終わりにむかう吐息のみ30秒程度ください】

鷹司「愛してる……愛してるんだ、愛してる……！」

あ、ああ………！【射精】

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【鷹司、呼吸整えながら、ヒロインの右隣に寝転がる】

SE: じゅん

SE: シッドの軋み

【7】

鷹司「おいで、こっちに。」

あーあ、すつかりふにやふにやじゃないか。

正直、少し物足りないが……

まあ、今日はこのくらいにしておこう。

下の階で、使用人が上がってこられなくて困っていいそうだしね」

【ヒロイン「タバコは吸わなくていいの？」】

鷹司「タバコ？」

ああ、今は……そうだな。

あまり吸いたいと思わないな。

それより、【抱きしめながら】君をこうして抱きしめて、君の香りに包まれていたい」

鷹司「なあ、笑わないで聞いてくれるかな。

いや、笑ってもいい。

君が笑ってくれるならそのほうが。

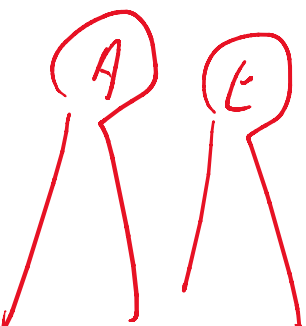
月並みなセリフだけど、心からこう思うんだ。

君と、僕と、子供たちで、幸せな家庭を作ろうって」

【ヒロイン「そうなるといい】

鷹司「そうだね。

そうなるといい。本当に」



●トラック7 添い寝

1 トラック6から4年が経過。3歳と1歳の子供がいる。
2 鷹司は32歳。
3 ヒロインは鷹司と使用人に支えられながらどうにか育児に参加していたが、
4 世間の流布する「理想の母親像」というものと逸脱しているため、自分の
5 存在が子供たちに悪影響を与えるという妄想に取りつかれ始めたため、子
6 供と別に生活することを決める。
7

SE: ドア開ける

【1-1】

鷹司「ただいま。

——子供たちに話してきたよ。

母さんは具合が悪いから、

今日から別々に暮らすんだよって。

少し寂しそうだったけど……

思ったよりはショックを受けていなかった。

もし君の調子がいい日があれば、

時々顔を見せてやると喜ぶだろう」

【ヒロイン「ごめんなさい」】

【1-1】

鷹司「謝ることはないさ。

君は健康な子供を二人もうんでくれたんだ。

それを誇りに思いこそすれ、謝罪なんて」

SE: 近づく足音

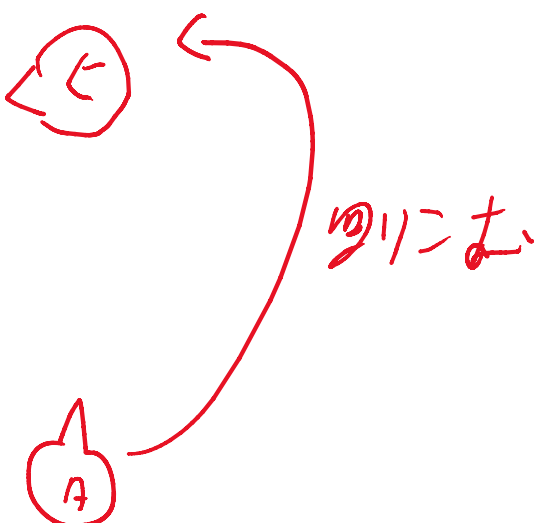
【鷹司、背後からヒロインを抱きしめる】

【6 背後から】

鷹司「君は本当に、よく頑張ってくれた。

僕が嫉妬するほど子供を愛してくれた

だからこそ、離れる決断ができたんだ」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【6 背後から】

鷹司「そんな君に母親失格だなんていう人間がいたら、
僕がその舌を切り落として食わせてやる」

【ヒロイン、情緒不安定に泣き出す】

鷹司「ああ、泣かないでくれ……！」

【1に回って】大丈夫、大丈夫だから。

君が自分を責める必要なんて一つもないんだ」

鷹司「昨晚も、泣いてばかりでろくに寝られていないだろう。

ほら、葉をあげよう。

これを飲んで少し眠りなさい」

SE:ビンのふた開ける

SE:錠剤出す

SE:水差しからコップに水をそそぐ

【ヒロイン「いらない」】

鷹司「わがままを言わないで。

いやでも飲むだ。

そんなに疲れ果てた顔をして、

倒れてしまったら大変っ——」

【ヒロイン、テーブルの上のものを床にぶちまける】

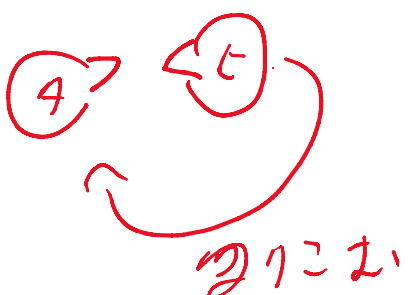
SE:物が落ちる（割れない）

SE:水がぶちまけられる

SE:衣擦れ

鷹司【優しく】ああ……水差しが落ちてしまったね。

すまない。君の手が当たる場所に置いた僕のせいだ」



1 【ヒロイン「怒らないの？ お仕置きは？」】

2

3 【1】

4 鷹司「そうだね。」

5 僕は今の君を怒らないし、お仕置きもしない。

6 今はその時じゃないから。

7 それより、おいで。一緒に眠ろう。

8 子供たちの代わりに、僕に添い寝をしてくれ」

9

10 【鷹司、ヒロインをお姫様抱っこベッドに連れていく】

11

12 SE:抱き上げる衣擦れ

13 SE:足音

14

15 【鷹司、バックハグでヒロインと横たわる】

16

17 【5】

18 鷹司「こうやって後ろから抱きしめられてると、

19 暖かくて落ち着くだろう？」

20 君は何も悪くない。

21 今はただ、自分のことだけを考えてればいいんだ。

22 ほら、目を閉じて。

23 深く息をして。深く、深く。きっと、そのうち寝られるから」

24

25 SE:雨の音フェードイン（眠くなる程度の音感）

26

27 鷹司「ああ……雨が降ってきたね。」

28 僕はね、雨音を聞いてると眠くなってくるんだ。

29 自分が雨に溶けて、水たまりに混ざって、

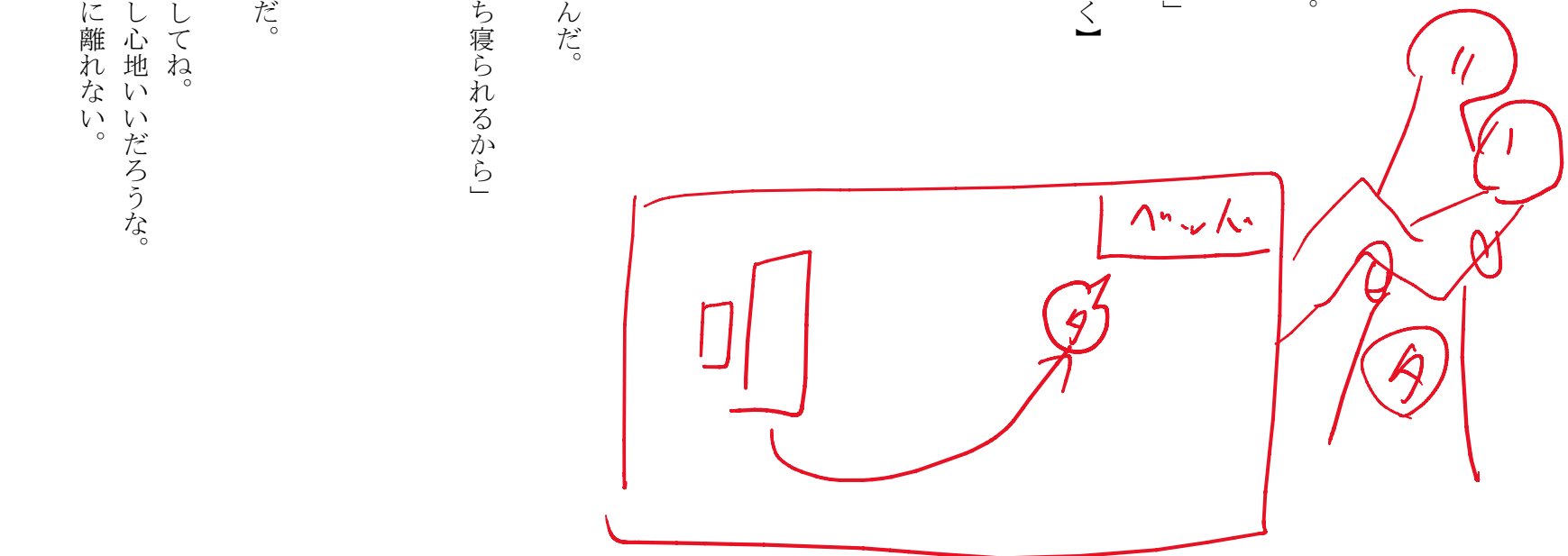
30 地面にしみこんでいくような……そんな気がしてね。

31 君と一緒に、雨に溶けてしまえたら、さぞかし心地いいだろうな。

32 君と僕が一つになって、まざりあって、永遠に離れない。

33 そうなれたらいいのに」

34



1 【5】

2 鷹司「ああ……僕の方が、先にねむくなってきたな。

3 最近、こうして二人でゆっくりできてなかったから、

4 君のぬくもりが心地よくて……」

5
6 【1分程度寝息ください】

7
8 【ヒロイン「将さん」】

9
10 鷹司「ん？ ああ、ごめん、起きてるよ。

11 どうかした？」

12
13 【ヒロイン「そっちを向きたい」】

14
15 鷹司「ああ、いいよ。

16 こっちを向いて、抱き合って眠ろう」

17
18 SE:体勢かえる衣擦れ

19 SE:ベッドの軋み

20
21 【鷹司、ヒロインを抱きこむ】

22
23 【1 唇が額の位置にくるあたり】

24
25 鷹司「僕たちは大丈夫だよ。

26 子供たちも大丈夫。

27 何も心配することはないんだ。

28 だから安心してお休み。

29 僕が世界のすべてから、君を守ってみせるから。

30 愛してるよ。愛してる。愛してる、愛してる」

31
32 【寝息1分程度ください】

33
34 SE:雨音、寝息に合わせてじりじりフェードアウト

35
36

●トラック8 ゲームの行方

トラック7からさらに5年が経過。鷹司は37。8歳と6歳の子供がいるが、母親の暮らす離れではなく母屋で生活している。衰弱が激しく、死を待つばかりのヒロインに寄り添う鷹司。死別トラック。

SE:心電図モニタの音

SE:ドアが開く

SE:近づいてくる足音

【1-1】

鷹司「ただいま。

まったく、ジジイが倒れたって言うから

わざわざ病院まで行ったのに、

あと五十年は行きそうなくらいびんびんしてたよ。

むしろ、早く奥様のおそばに戻りませんかとって大騒ぎだ」

【鷹司、ヒロインの寝ているベッドサイドに椅子を引いて腰を下ろす】

【7】

鷹司「安心したかい？

だから言っただろう？ 心配するほどのことじゃないって。

むしろ、君の方が重体だ。

ああ、そうだ。下でリングをすりおろしてもらってきたよ。

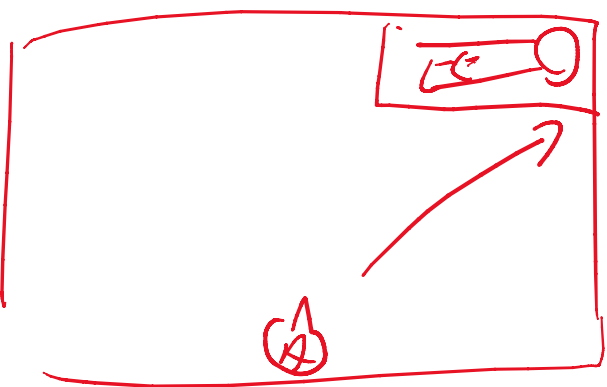
果肉は無理かもしれないけど、果汁なら飲めるだろう？

少し、ベッドを起こすね」

SE:電動介護ベッド起こすモーター音

鷹司「ほら、口を開けて」

SE:スプーンで果汁飲ませる



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

1 【1】

2 鷹司「よかった。」

3 気づいてたかい？ 君が僕の前で何かを口にするのは、

4 これが三日ぶりだ」

5
6 SE:食器を傍らに置く

7
8 【ヒロイン「ごめんなさい」】

9
10 【6】

11 鷹司「謝らないでいい。」

12 今、僕の手から、こうして少しでも食べてくれた。

13 それが嬉しいんだから」

14
15 鷹司「病院に行くついでに、先日の検査の結果を聞いてきたよ。

16 いつもと変わらず——異常なし、だ。

17 精神的な理由による衰弱であって、病気ではない。

18 これ以上治療方法はないそうだ」

19
20 【ヒロイン「ごめんなさい」】

21
22 鷹司「【困って】また謝った。」

23 君は何も悪くない。

24 むしろ、本当によくがんばってくれた。

25 あの日、君とビルで出会ってから十年……

26 【深いため息】君はずっと、あの日からずっと、

27 生きる苦しみのなかでもがいてきた。

28 いつか心の痛みが消える日を信じてね。

29 けど……結果はこれだ。

30 君は、自分の心に殺されかけてる」

31
32 鷹司「悔しいよ。」

33 もっと早く君に出会っていればよかった。

34 君が傷つけられる前に。

35 君が壊される前に。」

36

1 【9】
2 鷹司「君と僕が子供のころに出会って、
3 一緒に育ってこられたら、
4 もっと結果は違ったかもしれないのに、
5 どうして、こんな……」
6

7 鷹司【つとめて明るく】「ごめん。
8 湿っぽくなってしまったね。
9 そうだ。今日は、君が好きな小説家の新刊が出たんだ。
10 いつもみたいに、読み聞かせてあげようね」
11

12 【ヒロイン「昔したゲームを覚えてる？」】
13

14 鷹司「え？ ゲーム？ 昔のって……
15 ああ、覚えてるとも。
16 君を幸せにするゲームだね。
17 片時も忘れたことはない」
18

19 鷹司「けど……【苦笑】ゲームは僕の負けだな。
20 僕は結局、君を幸せにはできなかった。
21 ただ僕のために、君を生きる苦しみに縛り付けただけだ」
22

23 鷹司「君は、その……
24 ああ、ええと……僕を……恨んでる……かい？
25 僕が……憎い？
26 ねえ、もし……もしもだよ？
27 もしも君がそうしていいと言うなら……
28 今、ここで終わらせようか。
29 僕は君と二人で死にたい」
30

31 【ヒロイン「ゲームはあなたの勝ち」】
32

33 鷹司「……え？
34 僕の勝ちって……どういう……」
35

36 【ヒロイン「手紙を読んで」】

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【6】
鷹司「手紙？ 読めと言われても、何の話だか……
あれ？ ねえ、聞こえてるかい？
眠ったのか……？」

SE:心電図モニタの音 フラット

鷹司「え？ あ……ああ……！！
そんな、どうして……！！」

SE:立ち上がる
SE:椅子倒れる

【1】
鷹司「ダメだ！ まだ待ってくれ！
嘘だ、こんなの……！！
息をしてくれ！
誰か！ 誰か【来てくれ、と言いかけて言葉を飲み込む】」

SE:大勢が駆けつける足音
SE:ドアがあく

【1 ヒロインを見たまま】
鷹司「よせ！ 入ってくるな！」

SE:足音止まる

鷹司「もういい……十分だ」

【鷹司、ヒロインから電極はがす】
SE:電子音ストップ

1 【1】

2 鷹司「見るよ。枯れ枝みたいに痩せて……」

3 何を食べても吐いてばかりだったから、

4 きれいだった歯もボロボロだ。

5 白い肌は点滴の痕でまだらになって、

6 生きてる間ずっと苦しくて、苦しくて……」

7

8 鷹司【言いながら泣き出す】でも、今は笑ってる。

9 この笑顔が見たくて、見たくてたまらなかった。

10 やっと見られたよ。なんてきれいなんだろうね。

11 本当に……何をやってたんだ、僕は。

12 君はこんなに死にたがっていたのに、

13 苦しめるだけ苦しめて……！」

14

15 鷹司【深呼吸して】少し、二人きりにしてくれ。

16 確認の医者が来るまででいい」

17

18 SE:ゾア締まる

19 SE:遠ざかる足音

20 SE:倒れた椅子を起こす

21

21 SE:座る

22

23 鷹司【努めて落ち着いて】タバコ、いいかな。」

24

25 SE:シガレットケース取り出す

26 SE:オイルライターで火をつける

27

27 SE:しまう

28

29 鷹司【深く吸って吐く】

30 幸せそうだな。ああ……本当に幸せそうだ。

31 死ぬというのは、そんなにいいものかい？

32 いいね。僕もぜひ試したい。

33 とはいえ……さて、どうやろうか。

34 君に何かアイディアはないか？

35 【ヒロインの枕元に気づいて】ん？ これ……手紙？」

36

1 SE:手紙を手取る

2
3 【1】
4 鷹司「あて名は僕か……
5 【表題を読む】ええと……新しい、ゲーム？」

6
7 SE:手紙開く

8
9 鷹司「少し笑って」君ってやつは……
10 死ぬ前にこんな遊びを用意していたんだね。
11 どれ、どんな無理難題を用意してたのかな？」

12
13 鷹司「一つ。毎年、結婚記念日を祝うこと。
14 二つ。毎年、誕生日に花を贈ること。
15 【ここからやや深刻に】三つ……命日に必ず墓参りに来ること」

16
17 鷹司「四つ。子供の成長を報告すること。
18 なるほど、これは……
19 新しいゲームは、想像以上に無理難題ばかりだね。
20 ひどいな、君は。
21 僕一人で、こんな大変なゲームに挑めというのかい？」

22
23 鷹司「ああ、でも……大丈夫。
24 投げ出したりしないよ。
25 挑んでみせるさ。君のいない世界で苦しみながら。
26 君が僕のために生きて苦しんでくれた分、
27 僕は君の二倍苦しむと誓う。
28 愛してるよ。これからもずっと、死ぬまで愛し続ける。
29 出会ってくれてありがとう。
30 僕の、運命の人【唇にキス】」